

主要行等の平成 30 年 9 月期決算の概要

1. 損益の状況（グループ連結ベース）

- 30 年 9 月期は、内外の貸出金等から得られる資金利益は横ばいで推移する一方、手数料収入等の役務取引等利益が増加するとともに、全体として与信関係費用で戻入益となったことなどにより、当期純利益は前年同期に比べ 10.4% の増加。

(単位：億円)

	28 年 9 月期	29 年 9 月期	30 年 9 月期	前期比
連結業務粗利益	52,747	52,007	52,017	10
資金利益	24,321	24,519	24,541	22
役務取引等利益	16,133	16,277	16,903	626
その他業務利益	5,675	5,379	5,185	▲ 194
うち債券等関係損益*	2,880	1,540	266	▲ 1,274
経費	▲ 33,029	▲ 34,137	▲ 34,086	51
連結業務純益	20,145	18,446	18,390	▲ 55
与信関係費用**	▲ 989	949	1,498	549
株式等関係損益	1,465	2,428	2,954	525
うち株式等償却*	▲ 185	▲ 36	▲ 109	▲ 73
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,435	15,816	17,454	1,638

*債券等関係損益、株式等償却については銀行単体ベース。**与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

(参考)	28 年 9 月末	29 年 9 月末	30 年 9 月末
貸出金（末残）***	289.1 兆円	299.0 兆円	304.2 兆円

***貸出金は銀行単体ベースの銀行勘定計。

2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

- 不良債権額は 30 年 3 月期に比べ減少、不良債権比率も低下。

(いずれも平成 11 年 3 月期の金融再生法に基づく開示以降で最低)

	29 年 9 月期	30 年 3 月期	30 年 9 月期
不良債権額	2.5 兆円	2.2 兆円	1.8 兆円
不良債権比率	0.74%	0.66%	0.54%

3. 自己資本比率の状況（グループ連結ベース）

- 国際統一基準行の総自己資本比率、Tier1 比率、普通株式等 Tier1 比率は、30 年 3 月期に比べ低下。

- 国内基準行の自己資本比率は、30 年 3 月期に比べ低下。

(国際統一基準行：4 グループ)

(国内基準行：3 グループ)

	30 年 3 月期	30 年 9 月期		30 年 3 月期	30 年 9 月期
総自己資本比率	17.63%	17.46%	自己資本比率	11.26%	10.65%
Tier1 比率	15.12%	14.98%			
普通株式等 Tier1 比率	12.94%	12.84%			

(注1) 記載金額・比率は、四捨五入して表示。

(注2) グループ連結ベースは、みずほFG、三菱UFJFG、三井住友FG、三井住友トラストHD（以上、国際統一基準行）、りそなHD、新生銀行、あおぞら銀行（以上、国内基準行）を対象とする。

(注3) 銀行単体ベースは、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行、みずほ信託銀行、三井住友信託銀行、新生銀行、あおぞら銀行を対象とする。